

北の国から、灯編、

戦争させない市民の風・北海道

一ノ宮 麗子

2月の衆院選惨敗で今後の政治に恐怖を覚え絶望的な気分だった頃、東京・有楽町や国会前の集会に人が多数集まってきたことを知り、これはどういう事なんだろう？ 政治の中心地・東京のことだけかな？ と遠目で見ていました。

それが東京限定ではなく、札幌でも声をあげたい機運が高まっていると確信し始めたのが、3月19日の札幌駅前での「憲法守ろう集会」でした。新婦人の方たちが開催数日前に「5人だけでもやろう」と企画したそうで、そこには5人どころか約250人もの人たちが集まったのでした。ここ数年の札幌駅前での集会では参加が100人でも多い方なので、この数字は驚きをもって拡散され注目されました。そしてその6日後に開かれた「平和憲法はうちらが守る！ 札幌アクション」には倍の500人が集まり、4月には1400人、5月に入っても1000人規模の人たちが参加する大きなデモとなっ

たのでした。

この集会の特徴的なことは、ペンライト集会であること、比較的若い女性の参加が多いことで、東京の集会と共通していますが、札幌独自ではないかと思うのが、主催の明記がなく企画団体のくくりがないことです。集会に行ってみると運営している人たちがパレスチナやウクライナの惨状に心痛め集会やデモを企画してきた若い人たちだとわかります。ゆるいつながりのようにも見えますが、準備はしっかりされていて回を重ねるごとにアツプデート、毎回工夫が見られます。例えば5月末の集会では「デモデビュー応援スペシャル」と題して予めSNSでデモ初参加の方からメッセージを公募しスピーチ希望者を募っていました。続く7月のデモでは「政治を日常に」をテーマに日ごろ気軽に政治を語れるようにするためのアイデアを募集していました。言ってみたくーールのフレーズを募ったりと、参加型のデモを意識してい

◆特集 全国に広がる「ペンライトデモ」



4月8日のペンライトデモ、撮影可能ゾーン
通路挟んで撮影不可ゾーンがあり、
その他に静かに立ちたい人ゾーンもあります

るのが伝わってきます。

また、集会の宣伝はチラシを使わずSNSでの発信のみ、そして集会は頻繁にやらず、半月1ヵ月と間隔を開けて行うのです。結果として、待ってられないと思う

た人たちが一人でも声をあげ、各地域で小規模の自発的デモが起きるようになったのです。

ただ相乗効果は、賛同者だけでなく反賛同者にも及んでしまい、妨害する人たちが出てくるようになりました。街宣車で大音量の軍歌を流したり、からかいや嫌がらせでからんでくるようになったのです。その様子をSNSにアップしており、右翼まがいのユーチューバーのようにも見えます。警察が警備に入ることもあります。妨害者への恐怖心から参加をためらう人が出ることや、反発心から一部の人たちが先鋭化してデモデビューの人たちが離れていくこと等ないだろうか、今後不安な要素も出てきました。

その他学生運動を経験してきた先輩方の中には、集会冒頭にアナウンスされるグラドルルールに禁止事項が多いことや、怖くない集会を目指すためか首相批判を避けるきらいがあることに疑問を感じている方もいました。

私にとって、2月の与党激増ショックから立ち直るきっかけをくれたペンライト集会は希望の光であり、次世代の誕生を感じる明るい方の未来なのです。若い人たちに感謝しつつ、平和な未来がくれるようこの動きを応援していきたいと思っています。

(いちのみや れいこ)